

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【善前小学校】

学力向上
アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する 資質・能力	(1) 課題解決に向けて自分の考えを表現することのできる資質・能力 (2) 協働的な学びを通して、自分の考えを深めることができる資質・能力
↓	
実施する学力向上策 【時期・頻度】	(1) 児童自身の問いや意見を反映させた単元計画をたてたり、学習のゴールを資料や学習カードで明確に示したりすることで、児童が主体的に学習の見通しをもち、自分の考えを表現し直したり広げたりしていく時間を設定した授業の展開【各単元の中で2回以上】 (2) ICTツールを効果的に活用して、意見を可視化したり共通点や相違点に着目したりしながら、自分や友達の意見や考えを共有する場面を設定した授業の実施【各単元の中で1回以上】

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握)
		④結果提供(2月)
↓		
今年度の成果と 次年度の課題		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	・国語では、表現の工夫に気付いたり、表現の工夫をして自分の考えを伝えたりすること、算数では、整数と小数の減法の計算やデータの活用の領域において課題が残った。 ・資料を読み取り、自分の考えをまとめたり、根拠となることを言葉や数などを使って記述したりすることに、大きな課題がみられた。 ・自らの学習を調整することができる資質・能力と関連する児童質問「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」について、肯定的な回答が9割を超えていた。
↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態	・引き続き、グラフや表などの資料を活用しながら自分の考えをまとめたり、相手や目的を常に意識しながら実際に自身の意見や考え、思いなどを表現に工夫して書いたりするといった活動を、積み重ねていく必要がある。 ・日頃、多くの児童が、主体的に学習を調整することができている。

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態	①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト等の分析・活用 ③中間評価を経ての取組 ④調査結果を活用した授業

③	調査結果分析 調査結果分析(管理職・学年主任・教員) 中間評価	
学力向上策の実施状況	評価(※)	学力向上策(1)、(2)ともに実施することができている。
	B	
↓		
学力向上策の見直し	(2)については、児童の実態を踏まえ、各教科の学習内容を関連させながら、自分の考えを相手により分かりやすく伝えていくために、表現の工夫をしていくことを指導していく。また、書いたり、学習端末で打ち込んだりした文章を自分で推敲し、その後仲間と見合う活動も多くの学年・学級で設定していく。	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

教育研究所